



2020-2021年度
国際ロータリーのテーマ

ロータリーは 機会の扉を開く

R I 会長
ホルガー・クナーク

第2720地区ガバナー
第2720地区ガバナーエレクト
大分第3グループガバナー補佐

硯 川 昭 一
大 森 克 磨
白 杵 徳 二

第2720地区 大分第3グループ

別府東ロータリークラブ

例会日：毎週木曜日 12時30分
例会場：ホテルサンバリーアネックス(1・2・3週)
杉乃井ホテル(4・5週)
事務所：別府市西野口1番1号
〒874-0931 (青山通りビル3階)
TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
E-mail: jigoku@beppuhigashi-rc.jp
info@beppu4rc.jp
<http://www.beppuhigashi-rc.jp/>

会長 檀上 陽一 幹事 笠木 隆弘

VOL. 42-No.26 2021年3月18日

第1999回例会

公共イメージ委員長 西 貴之



梅とメシロ

(ロータリーの友 2016年3月号 表紙に掲載さる)

“生涯を通じて わかりあえる友を増やす”

別府東RC 会長テーマ

■ 点 鐘 12時30分

■ ロータリーソング それでこそロータリー

四つのテスト
言行はこれに照らしてから
1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

■ ゲスト

廣瀬 菜美子 氏
(わくわく実験室ふぁみらぼ 主宰)

■ ビジター

中野 通孝 氏 (大分RC)

■ 出席報告		委員長 一力 秀次	
本 日	会員総数	46名	ゲスト 1名
	出席数	25名	ビジター 1名
	欠席数	14名	出席率 64.10%

出席規定免除(a): 石田

出席規定免除(b): 樽谷、加藤

緊急特別措置適用により免除: 4人

■ メイクアップ

事前

事後 野本 (大分南)

安部、阿南、一力、川本、児玉、森、中村、
中塚、二宮(秀)、太田、岡本、詫磨、梅津、
山下(唱) (地区大会)

■ 欠 席

安部、阿南、川本、児玉、河野、森、長野、西、
二宮(秀)、岡本、高橋、詫磨、梅津、山下(唱)

会長の時間

会長 檀上 陽一

本日のゲスト卓話は、廣瀬菜美子さん。

大分県に科学博物館を誘致しようと、市民の草の根運動を展開しています。大分県は大分空港を「宇宙空港」にする計画を進めています。祈願成就できますよう期待します。

先日瑞木さん、太田さんに同行して光の園白菊寮と平和園に中学、高校卒業のお祝いを届けました。卒業生の中で高校卒業後、市内の短大に進み保育士の資格を取得して、出身の施設で今度は保母さんを目指すという人がいました。大変有難い事です。自分の人生を児童福祉の世界に捧げ、自身が受けた慈しみ深い愛情を、今度は出身施設で自ら子ども達に「還元」する役割を担う事になります。彼らを見守る支援環境の充実を目指し、別府東らしい青少年奉仕の理想を更に前進しなければと痛感しました。

■ 幹事報告

幹事 笠木 隆弘

1. 3月14日(日)13:00より、RI第2720地区2020-2021年度地区大会がオンライン開催されました。視聴された皆様、お疲れさまでした。

2. 3月15日(月)、当クラブを代表して、檀上陽一会長、太田直希青少年奉仕委員長、瑞木一博青少年奉仕委員の3名が児童福祉施設「別府平和園」、児童養護施設「光の園」へ赴き、中学・高校卒業生計11名へ卒業祝い品を贈呈しました。



光の園 白菊寮にて

3. 例会変更のお知らせ

大分臨海RC 3月29日(月)の例会は、休会といたします。

日出RC 3月30日(火)の例会は、休会といたします。

竹田RC 3月30日(火)の例会は、菅謹一郎会員入会・皆勤50年祝例会のため、同日18:30～ホテル岩城屋に時間変更いたします。

大分東RC 4月1日(木)の例会は、休会といたします。

4. 次週(3月25日)の例会予定

「別府東RC例会2000回祝賀を兼ねて
3RC合同花見例会」
18:30～ 於ホテルサンパリーアネックス

5. 今後の例会予定

4月1日 「未定」

8日 「杉本邦弘会員傘寿および
甲斐文明会員古稀祝い会」
於べっぶ昭和園

15日 社会奉仕「観光都市別府をきれいに
する活動」のため短縮例会

6. 本日の回覧

- ① 4月1日例会 出・欠席
- ② 4月8日杉本会員・甲斐会員お祝い会
出・欠席
- ③ ハイライトよねやま Vol.252
- ④ RI第2720地区より「地区大会ライブ配信
ご視聴の御礼」
- ⑤ 2020-2021年度RYLAセミナー受講者
募集について
- ⑥ 別府北RC事業「わん!だふるフェスタ」
チラシ
- ⑦ 大分城西ロータリークラブ創立30周年
記念誌
- ⑧ 別府平和園より、卒業記念へのお礼のお手紙

■ お祝い

配偶者誕生日 工藤 千恵さん(3月20日)
*ご自宅にお花とお菓子をお届けします。

結婚記念日 工藤 陽一会員(3月20日)
*ご自宅に特選豊後牛肉をお届けします。

皆 勤 但馬 建会員(3月13日=13年)

■ ニコボックス

委員長 赤嶺 リサ

○檀上陽一会長 光の園、平和園を訪問しました。
瑞木さん太田さん青少年奉仕活動に敬意の誠を捧げ、5口。

○羽田野徹会員 ロータリーソングで崎村くんを会長と
言ってしまいました…。1口入れます。申し訳
ありません。廣瀬さんの卓話のスバラシさに1
口。

○赤嶺リサ会員、瑞木一博会員 各2口。大分ロー
タリークラブ中野会長ようこそおいで下さいました。
本日、ゲスト卓話の廣瀬菜美子さん宜しく願い致
します。元社員さんの卓話にかけつけた中野会長の
情熱に2口させて頂きます。

○中野 通孝氏(大分ロータリークラブ) 今年度大
分ロータリークラブ会長を務めている中野です。
今日はお世話になります。合同新聞で廣瀬菜美子
さんが卓話をするというのを見て、飛んでまいり
ました。彼女は元私の会社の社員で看板娘でした。
また高校の後輩でもあり、同窓会活動にも積極的
に協力してくれる頼りになる後輩です。名家に嫁
いだことで気苦労もあるでしょうが子育てに頑張
って将来はぜひロータリアンになってください。大
分ロータリークラブは今年度70周年を迎えます。皆
さんぜひ一度大分クラブの例会にもお越しくださ
い。1口(現金)。

科学するあそび、科学する心



檀上会長と共に

わくわく実験室ふぁみらぼ 主宰

廣瀬 菜美子 氏

皆様、こんにちは。

ただいまご紹介いただきました『わくわく実験室ふぁみらぼ』の廣瀬菜美子と申します。本日はこのように素晴らしい機会をいただきまして、誠にありがとうございます。普段は子ども達と楽しんでいるので、大人の皆様に前に少々緊張しておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 体育会系の青春時代

それでははじめに、自己紹介させていただきます。

私は、1977年に大分市で生まれ、高校を卒業するまで大分市で過ごしました。小さい頃から体を動かすことが大好きで、両親とはよく山登りやキャンプに出かけ、クラシックバレエや新体操に汗を流し、活発な少女時代を過ごしていました。

高校の生徒会で体育大会実行委員を経験したことをきっかけに、大学は千葉の順天堂大学スポーツマネジメント学科に進学。

大学では全く新しいスポーツに挑戦してみたいと思い、25mしか泳げないのにトライアスロン部に入部しました。(泳いで、自転車をこいで、長距離を走る競技)花の女子大生生活は、真っ黒に日焼けしながら厳しい練習に打ち込む日々を過ごしました。

そして大学4年生になった頃、日本で初めての女子実業団自転車チームに誘われ、1年間なら、ということで、ロードレースやトラック競技の大会に月1回ほど出場し始めました。

私は瞬発力の使う短距離が得意だったので、トラック競技の500mタイムトライアルという種目ではいきなり入賞するなど競技初心者にしてはそこそこの成績を収めていきました。すると闘争心に火が付き、勝利のためどんどんのめり込んでいきました。このような状況でしたから、せっかく内定していた会社も辞退して、元競輪選手に弟子入り。毎朝5時から競輪選手を目指す高校生たちと一緒に練習し、昼間は自転車屋でアルバイト、夕方は筋トレをする日々を約2年間送りました。

結果として、実業団ではランキング1位、全日本選手権は3位の成績までいきましたが、アジア大会の切符を逃したところで競技生活に区切りをつけ、大分へ帰ってきました。

大分では自転車は趣味程度にして、自動車ディーラーに就職し、営業事務などを担当。私が一番タフだから、ということで、その頃は企業推薦だった大分市のキャンペーンレディを務めたりもしました。約6年間働いたあと、結婚を機に30歳で退社。14年経った現在は、子どもが4人(中学1年、小5、小2の3人娘と2歳半の男の子)、夫は福岡に単身赴任の、平日は不在。特にこのコロナ禍の非常事態宣言中は家に帰ってくるのができなかったため、ワンオペ育児をがんばりました。

2. 『ふぁみらぼ』の誕生

さて、ここまでのお話で私が生粋の体育会系で科学には全く縁のないことがわかっていただけたと思います。ではなぜ、この科学あそびの『わくわく実験室ふぁみらぼ』を始めようと思ったのか、そのきっかけは我が子でした。今から約8年前、長女が幼稚園年長の夏、専門学校が主催し、JAXAが共催する『宇宙展』にたまたま寄る機会がありました。本格的な人工衛星、ロケットなどの宇宙展示やデモンストレーション、様々な実験や工作に見事に親子で夢中になり、1日中見て回りました。長女はその後、テレビで宇宙に関係する番組は真剣に見るし、実験番組があると「やってみたい」「どうやったらできる？」など訴えてくるようになりました。その頃の私は、何の知識もなく、自分でできるとも思っていなかったので、大分のどこかで体験できる教室はないかを探しました。そして唯一見つかったのが、大分県が委託開催していた当時の名称で『少年少女科学体験スペースオーラボ』という施設でした。

こちらが開いているのは、6月～3月の土日と長期休みのみ。場所は、大分市の竹町商店街の空き店舗1店舗

分を改装した広さしかないので、1回の講座は定員16名ほど。様々な分野の先生から無料で講座を受けることができますが、抽選に当たらないと参加することができません。そして、対象は小学生以上のみ、という条件でした。当然、幼稚園生だった長女は参加も申し込みもできず「小学生になったら来てね」と言われてしまいました。残念そうな娘の姿に「大分には幼稚園生がいつでも科学体験できる場所はないんだな、この子は今、やりたいのに、この好奇心はどうしてあげたらいいんだろうか」もやもやとはがゆさが残りましたが、娘には「ごめんね、小学生まで待とうか」と言うことしかできませんでした。

そして1年生になった5月、佐賀関の関崎海星館で開催されていた小学生向けの空気ロケット工作発射体験に、長女は「やっと参加できる～」と喜んで出かけました。

子どもたちが楽しそうに遊ぶ中、参加していた保護者にむけて館長さんが言われた言葉です。

「日本で総合的な科学館が無いのは沖縄県と大分だけなんです。10年以上、学識経験者も含めて大分に科学館を作ろうと活動しているけど計画すら立ちません。実現するには、要望する市民の声が必要なんです。ぜひ皆さんの中から声を上げてください」

その言葉を聞いた瞬間、私は、なぜか体中が熱くなり、ドキドキが止まりませんでした。大分は田舎だから科学館がなくて当たり前、と思っていた私には、大きな衝撃でした。正直、怒りにも似た感情だったと思います。

「ほとんどの県に科学館があるのに、どうして大分に無いのか、大分の子どもたちには科学は必要ないということなのか、私でも何かできることがあるんじゃないだろうか、声を上げたい！私がやるべきことはこれかもしれない」本気で魂が震えた瞬間でした。『大分に、いつでも誰でも行けて、教えてくれる先生がいる、総合的な科学館が欲しい』一度決めたらあとは行動するのみです。まずは、大分の関係する団体の方に直接電話をかけてお話を伺いました。オーラボの方にも実情を詳しく伺いながら、大分県や大分市の関連する議会議事録や長期総合計画なども読み込みました。また、全国の大小様々な科学館のHPも閲覧しました。全ての情報が初めて知ることばかりで、驚きと悔しさを覚えながら、毎日情報収集をしていました。このような中、一緒に活動してもらえる仲間を探して、友人達にも声をかけていくと、小学校と幼稚園の教員免許を持っている高校の同級生が、「いいよ、一緒にしよう！」と快く引き受けてくれました。科学館の設置については、かなりの年月がかかることが分かったので、その間、オーラボに参加することができない、小さな子どもたちのために、簡単な科学体験ができる場所をつくろう、ということで、2014年7月、ファミリーのラボトリー『わくわく実験室ふぁみらぼ』が誕生しました。この時、娘たちは、小1、4歳、2歳。まさしく、我が子のためのふぁみらぼでもありました。

3. 活動の様子

それでは実際にどのような活動をしているのか、一部を紹介させていただきます。

<ワークショップ> 公民館や子ども会、オーラボでの講座、イベント出店

<幼稚園> 年間カリキュラムとして学期に1回、学年ごとに実施

<野外活動・キャンプ> 県や大分市の補助金で海、山、森、キャンプ

これまで約7年間の開催回数は164回、参加者は約5,800人となりました。

工作や実験そのものは、本や企業HPを参考にさせていただきますが、私たちは対象となる年齢に合わせて、工作手順や解説、声掛けを変えていきます。扱う材料や道具も気軽にお店で手に入る物を選び、子ども達が家に帰ってまた親御さんと一緒にできるようなものになっています。私たちはその場限りの先生ですが、子どもにとって一番身近な親御さんが科学の先生となって、子ども達の好奇心を育てていただき、その輪がどんどん広がっていったら嬉しいなと思っています。また、ふぁみらぼとは別に、私個人の活動として、大分市私立幼稚園PTA連合会の役員を6年務めています。2017年に会長を務めた際に、『大分に総合的な科学館の設置を希望する』署名活動を行いました。1ヶ月しかない募集期間でしたが、保護者や園関係者から14,000名以上の署名をいただき、大分市長へ要望書を、大分市議会議長へ陳情書を提出し、協議していただきました。その結果として、一昨年4月より大分市中心部の廃校になった旧中島小学校の理科室に『おおいた子どもかがく広場』という、登録した団体が無料で利用できる場所を設置していただきました。ふぁみらぼも『園児のための科学あそび教室』を開催し、親子で科学を楽しんでもらっています。

私はこれまで「大分に科学館がほしい」という思いの中で活動していたのですが、実は、今、事態は全く新しい方向に進み始めています。もうご存知のことと思いますが、昨年発表された大分空港を水平型打ち上げ宇宙港に活用するというものです。今後大きく成長すると見込まれている宇宙産業に、たくさんの企業や研究機関が取り組み、大分だけでなく九州全体として非常に盛り上がっています。大分県は大きな総合的な科学館がなく、全国で一番科学に恵まれていなかったはずが、ものすごい勢いで最先端の宇宙県になろうとしているのです。いえ、もうすでになっていると思います。

ついこの前の14日(日)にも、『おおいた宇宙フェスタ』がビーコンプラザで開催され、たくさんの関係者や家族連れで大変賑わっていました。8年前に大分の科学教育に絶望した私にとっては、本当に天にも昇る気持ちですが、このすばらしい機会をぜひ地元のため、大分の子ども達のために繋げていくことが、これからの私の使命ではないかと感じています。そしてやっぱり、いつでも誰でも体験できる科学館があるといいのになあと思ってしまいます。今度5月に予定している育成クラブの科学教室も、宇宙港を踏まえた内容になっているので、楽しく遊びながら伝えていきたいと思っています。

4. ふぁみらぼ体験

さて、せっくなので皆様にもふぁみらぼの実験教室を体験していただこうと思います。5歳児になったつもりで楽しんでくださいね。

《ふうせんであそぼう！》
上下にひっぱる → 左右にひっぱる → 上下 → 左右
めいっばいふくらませる、むすぶ
ドライヤー実験、大ふうせん、ピンポン
捨てる方法 針でさす、しばむ、おしり、はさみ
オレンジ爆破実験 リモネンの説明 終了！



5. ふぁみらぼの理念

最後になりますが、私が活動が続ける中で、心の軸としている尊敬するお2人の言葉を紹介させていただきます。

御一人目は、ソニー創業者の井深大先生です。井深さんの理念である「科学教育の充実と乳幼児期の心を育てる教育の重要性」を受け継いで設立させたのがソニー教育財団であり、7つの【科学する心】を提唱されています。

【科学する心】

- 1、すごい！ふしぎ！と身の回りの出来事に驚き、感動し、想像する心
- 2、自然に親しみ、自然の不思議さや美しさに驚き、感動する心
- 3、動植物に親しみ、様々な命の大切さに気づき、命と共生し、人や自然を大切にする心
- 4、暮らしの中で人、もの、出来事と意欲的にかかわり、ものを大切にする心、感謝する心や思いやりの心
- 5、遊び、学び、共に生きる喜びを味わう心
- 6、好奇心や考える心、その心の動きから生まれる創造性や分かった時の喜びを味わう心
- 7、自分の思いや考えを表現し、考え・つくり出していく楽しさの体験や、やり遂げる心

私はふぁみらぼを始めるまで、『科学』とはすごく難しくて遠い研究者の世界だと思い込んでいました。でも、実際には普段の生活の中に科学はたくさんあふれていて、楽しくて、不思議で、とても感動的な世界だと気づきました。この【科学する心】も難しくありません。ごく当たり前に、親が子どもに培ってほしい心ばかりです。

『目に見えないけれどそこにある』科学の不思議な現象を、子どもと一緒に共感し、寄り添い、見守ることで、【科学する心】を豊かに、そして強くしていけたらと思っています。

そして、尊敬するもう御一方は、私が結婚を機に知ようになった京セラ創業者の稲盛和夫先生です。夫が経営に携わっているのも、多くの本を拝読させていただき、その『考え方』『生き方』『心』に感銘を受けております。

私自身が順調ではない時には、稲盛さんの「世のため人のために尽くす」「困難に真正面から取り組む」「迷ったときには原点に返る」などの言葉に勇気づけられ、まわりの人のことを考える「利他の心」が私の人生の軸となりました。

ふぁみらぼは大分市のボランティアセンターに登録している3人だけの小さなグループです。私と、幼稚園教員、看護師、全員文系なので、難しい言葉は使いません。子どもと同じように疑問をもち、分かりやすくかみ砕いて伝えること、主婦目線、ママ目線がふぁみらぼの良さだと思っています。

大分の子ども達が笑顔になれるように、ママやパパ達も子育てを楽しんでもらえるように、これからも私達らしく楽しくふぁみらぼを続けていきたいと思っています。

日々の活動の様子は、facebookやinstagramで更新していますので、よろしければご覧になってください。本日はご清聴ありがとうございました。

関東大震災と ロータリー

1923年9月1日、マグニチュード7.9（推定）の大震災が関東地方を襲いました。死者10万5,385人、全壊全焼流出家屋は、29万3,387に上り、電気、水道、道路、鉄道などライフラインにも甚大な被害が発生しました。

その当時、日本のロータリーはというと、1920年10月に東京RC、1922年11月に大阪RCができたばかりでした。

関東大震災のニュースが世界を駆け抜けると、世界各地のロータリークラブから救援の手が差し伸べられました。

被災直後の9月4日には、当時のRI会長のガイ・ガンディカー氏から東京RC宛てにお見舞いの電報が、その翌日には、RIからの救援費として、2万5,000ドルを送る旨の連絡を受けています。当時の通信技術や時差を考えると、即日の対応と考えられます。

世界のロータリークラブからも、RI、東京RC、あるいは被災を免れた大阪RCを通して、寄付の申し出があり、その総数は、17カ国503クラブ、総額約8万9,000円に達しました。

東京RCでは、これら救援金の使途として、焼失した小学校へ黒板、地図など物品の寄贈（対象 東京118校、横浜70校）、会員の管理する産科病院の焼失に対する再建援助、孤児院への寄付、建物の寄贈、殉職警官遺族への援助を決めました。この使途を決めた委員会のメンバーの中には、日本のロータリーの創始者、米山梅吉氏もいます。

孤児院については、東京市（当時）の希望を織り交ぜて新築して寄贈することになり、「ロータリーの家」として、翌年10月に完成しました（第二次世界大戦で焼失）。また、震災当時職務のために殉職した警官が多かったため、その遺族への支援を行いました。

引用・参考資料

- ・『日本ロータリーの原風景を辿る—関東大震災時の世界各国からの援助活動を通じて—』（1993年 東京西RC発行）
- ・『わがクラブの歴史』（1955年 東京RC発行）

※共にロータリー文庫（<https://www.rotary-bunko.gr.jp>）でダウンロード可能です。



東京RCが「ロータリーの家」を建てたことを報じる『The Rotarian』の記事（1925年2月号）

東京西RC 1993—94年度国際奉仕委員長の小林基茂氏は、『日本ロータリーの原風景を辿る—関東大震災時の世界各国からの援助活動を通じて—』の中で、関東大震災を機にRIや世界のロータリークラブ、東京RCの活動が残してくれた三つの教訓について、私見を述べています（以下抜粋、要約）。

第一は対応の迅速さ。人間の好意や誠意は、対応の速さで違ってくる、ということ。

第二は、支援金の配分の在り方。食料や衣料といった生活用品の提供ではなく、「人を対象」として「心に響く」ような援助を行っており、今、何が必要であり、重点とすべき援助を何にするのかを慎重に検討した跡がしのばれ、「心」をもって援助を行っているということ。

第三は諸外国からの援助を受け、日本人が初めて世界社会を意識したといわれている。今日という国際交流は、この時に始まったということ。

なお、関東大震災を機に東京RCでは、月1回程度の例会が、現在のような週1回になるなど、社交クラブ的な雰囲気から「無我の奉仕」実現の場として、クラブ運営の改革がなされたそうです。